

1. 調査概要

1) 調査の目的

本調査は、茨木市より排出される家庭系ごみ及び事業系ごみの排出実態を把握することで、将来における発生抑制及び再資源化の方向性を検討するための基礎資料とすることを目的として実施した。

2) 調査対象ごみ

家庭系ごみ（普通ごみ、粗大ごみ（小型・大型））、事業系ごみ

3) 調査日程

本調査は、家庭系普通ごみを3回、家庭系粗大ごみ（小型・大型）及び事業系ごみを1回調査するものであり、表 1.1 に示す日程で実施した。

表 1.1 調査日程

ごみ種別		サンプリング	分類・測定
家庭系ごみ	普通ごみ	平成 26 年 6 月 20 日(金)	平成 26 年 6 月 20 日(金)
		平成 26 年 10 月 28 日(火)	平成 26 年 10 月 28 日(火)～29 日(水)
		平成 26 年 12 月 16 日(火)	平成 26 年 12 月 16 日(火)～17 日(水)
	粗大ごみ小型	平成 26 年 10 月 2 日(木)	平成 26 年 10 月 2 日(木)
	粗大ごみ大型	平成 27 年 2 月 19 日(木)	平成 27 年 2 月 19 日(木)
事業系ごみ		平成 26 年 12 月 3 日(水)～ 4 日(木)	平成 26 年 12 月 3 日(水)～ 4 日(木)

4) 調査対象グループ

家庭系ごみ（普通ごみ、粗大ごみ）は、茨木市の平均的なごみ質が把握できるよう、住居形態等を考慮して前回調査と同様に市内から3地区を選定し、対象地区とした。事業系ごみは、業種別のごみ質が把握できるよう、前回調査と同様に8業種グループを設定し、許可業者契約先名簿から回収ルート等を考慮して業種グループごとに4～5事業所を抽出した。調査対象グループを、表 1.2 に示す。

表 1.2 調査対象グループの概要

家庭系ごみ(普通ごみ、粗大ごみ小型・大型)	事業系ごみ
① 一戸建てを中心とした住宅地区	① 建設業
② 中層住宅地区	② 製造業
③ 一部商店も混在する住宅地区	③ 卸売業(卸売業、倉庫、配送センター)
	④ スーパーマーケット
	⑤ 一般商店(その他の小売業)
	⑥ 飲食店
	⑦ サービス業
	⑧ 事業所(事務所、営業所)

5) 分類項目

表 1.3 家庭系普通ごみ及び事業系ごみの分類項目

分類項目				番号		
プラスチック類	容器包装	対象容器包装	ペットボトル	飲料のペットボトル	1	
				調味料などのペットボトル(醤油、酒、みりん)	2	
			プラボトル	飲料水プラボトル(ペットボトル以外で牛乳、乳酸菌飲料)	3	
				食料品・調味料のプラボトル	4	
				日用品のプラボトル	5	
			スクイーズ・チューブ・スティック容器(のり、口紅等)(食品、日用品)			6
			白色発泡トレイ(シメジも含む)(食品、日用品)			7
			カップ・コップ バック・トレイ	カップ・バック・トレイ状容器・コップ・台紙付き容器(発泡容器、透明バック・トレイ、色・柄付き発泡トレイ等)	8	
				小型容器(しょう油・フレッシュなど食品容器、日用品容器)	9	
			トロ箱・アイスクリーム等発泡容器(宅配会社の保冷容器は除く)			10
			袋・シート・フィルム等 (食品・日用品混合)	小さな袋・包み(タバコの箱未満)	11	
				ラップ(家庭で付けられたものを除く)	12	
				家庭用のラップ(家庭で付けられたもの)	13	
				アルミ蒸着・アルミ複合袋(油性の菓子、レトルト等)	14	
				アルミ蒸着小袋(あめの小袋等タバコの箱未満)	15	
			その他	緩衝材(シート状やスポンジ状のクッション含む)	16	
				容器包装の一部とされているもの(ワイシャツの襟やボタンのサポーターふた、ペットボトルのラベルなど)	17	
				その他(容器包装であって上記のいずれにも該当しないもの)	18	
		サービス業等の袋・シート(容器包装であって上記のいずれにも該当しないもの)			19	
	対象外容器包装	ひも・バンド・結束テープ、湿布シート、ボトルの口巻き等	20			
		サービス業等のバック・カップ(ゲームの景品の容器、試供品の容器、宅配便の容器など)	21			
	保管や品質保持用の容器包装(CD・ビデオケース、歯磨きのトラベルセットのケースなど)			22		
	商品等	ごみ袋	23			
		おもちゃ・スポーツ用品等	24			
		日用品・文具(洗面器・歯ブラシ・フラワーボット等)	25			
		その他成形品	26			
		使い捨て商品(複合材質プラ含む)	27			
紙類		容器包装	紙バック	飲料用の紙バック	アルミコーティング無しの紙バック	28
					アルミコーティング有りの紙バック	29
	飲料用以外の紙バック		アルミコーティング無しの紙バック	30		
			アルミコーティング有りの紙バック	31		
	段ボール箱(食品、日用品混合)			32		
	資源可能な紙製容器包装(食品・日用品のティッシュペーパー箱より大きい箱、デパート等の包装紙・紙袋等)			33		
	上記以外の紙製容器包装			34		
	商品等	新聞紙(読んだ後そのまま捨てたもの)			35	
		書籍類(単行本、文庫本、雑誌、週刊誌)			36	
		折り込み広告			37	
		紙おむつ	38			
その他の紙(ちり紙、紙ふきん等使い捨て商品、レシート、私信など)		39				
繊維類	衣料・身の回り品	40				
	その他の繊維類	41				
ゴム類	靴	42				
	その他日用品	43				
皮革類	靴	44				
	かばん	45				
草木類	その他日用品	46				
	剪定枝	47				
木片類	その他の草木類	48				
	木製容器包装	49				
	食生活用品	50				
	使い捨て商品(割り箸)	51				
	その他の木製品	52				
ガラス類	容器包装	飲料用のびん	リターナブルびん	53		
			ワンウェイびん	54		
		食品・日用品のびん	リターナブルびん	55		
			ワンウェイびん	56		
		飲料用一升瓶	リターナブルびん	57		
			ワンウェイびん	58		
		飲料用以外の一升瓶 (醤油、油等)	リターナブルびん	59		
			ワンウェイびん	60		
	上記以外のガラス製品(化粧品のびん)			61		
	商品等	コップ等	62			
		蛍光灯(直管、曲管)	63			
		割れガラス(窓ガラス等)	64			
		鏡	65			
		上記以外のガラス製品(電球、断熱食器、灰皿など)			66	
金属類		容器包装	飲料用の缶	アルミ缶	67	
			スチール缶	68		
	食品・日用品の缶詰・缶箱		69			
	スプレー缶		70			
	上記以外の金属製容器包装(食料品のアルミトレイ、アルミ箱、チューブ、王冠など)		71			
	商品等	金属製食生活用品(鍋、かま、フライパン等)	72			
		乾電池類	乾電池	73		
			ボタン電池、充電池など	74		
		食生活用品以外の単一金属製品	75			
		上記以外の(複合)金属製品(使い捨てカイロ、おもちゃ等)	76			
陶磁器類	陶磁器製容器	77				
	商品等(置き物、花瓶ん等)	78				
厨芥類	手を付けていない食料品(1/2以上の原型を残すもの:容器包装のまま)	79				
	一般厨芥	80				
その他可燃・準可燃	(掃除機のごみ、煙草の吸い殻、犬の糞及び糞を包んだ袋・紙など)			81		
その他不燃	(土砂、かわら、乾燥剤など)			82		

表 1.4 家庭系粗大ごみの分類項目

分類項目		番号
パソコン周辺機器	プリンタ	1
	スキャナー	2
	その他	3
その他の電化製品	暖房器具	4
	オーディオ	5
	電子レンジ	6
	扇風機	7
	炊飯器	8
	掃除機	9
	照明器具	10
	その他	11
家具等	たんす	12
	棚	13
	机	14
	家具(布団など)	15
	じゅうたん	16
	カーペット	17
	ソファ	18
	ベッド	19
	衣装ケース	20
	その他	21
生活雑貨	バッグ	22
	トランク	23
	おもちゃ	24
	子ども用品	25
	健康器具	26
	人形	27
	その他	28
スポーツ用品	スキー	29
	スノボ用品	30
	ゴルフ用品	31
	その他	32
自転車等	自転車	33
	一輪車	34
	その他	35
カー用品	カーナビ	36
	カーステレオ	37
	その他	38
その他	楽器類	39
	ガスレンジ	40
	剪定枝	41
	その他	42

2. 調査結果

1) 家庭系普通ごみ

6 月、10 月、12 月の 3 回に渡って調査した結果、いずれの地域も厨芥類が 30～40%、紙類が 25～30%、プラスチック類が 15～20%を占めており、概ねの傾向に差異はみられなかった。

その他のごみとしては、一戸建てを中心とした住宅地区及び中層住宅地区については草木類が 6～8%程度排出されており、中層住宅地区及び一部商店も混在する住宅地区については繊維類（身の回り品）が 5～10%程度排出されていた。

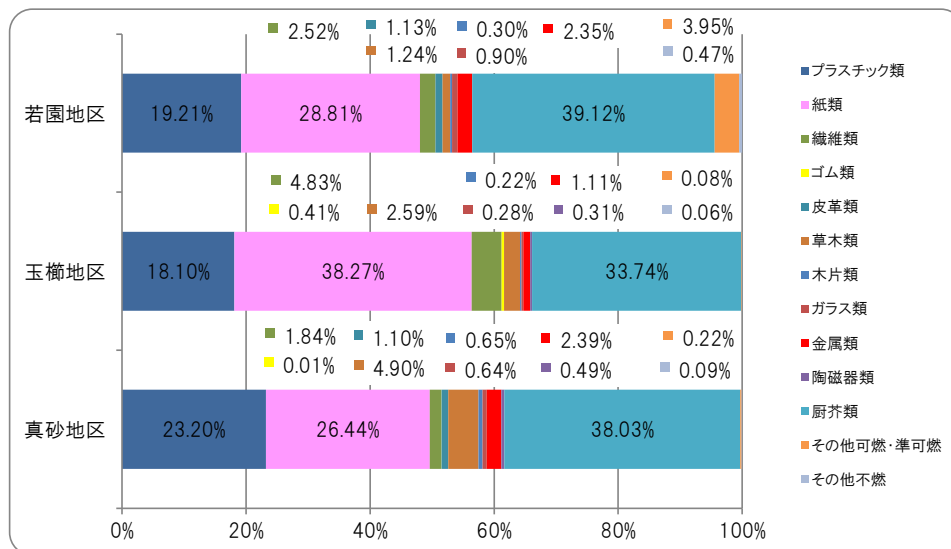


図 2.1 大分類ごみ組成（家庭系普通ごみ／3 ヶ月合計）

2) 家庭系粗大ごみ（小型）

家庭系粗大ごみ（小型）調査は 10 月に実施したことから、季節の変わり目の影響もあり、いずれの地区も家具等及び生活雑貨がほとんどで、特に布団が約 1～2 割程度含まれていることが確認された。また、今回の調査ではパソコン周辺機器、スポーツ用品、自転車等の排出はなく、カー用品も若園地区のチャイルドシート部品 1 点を除くと排出されていないことが確認された。

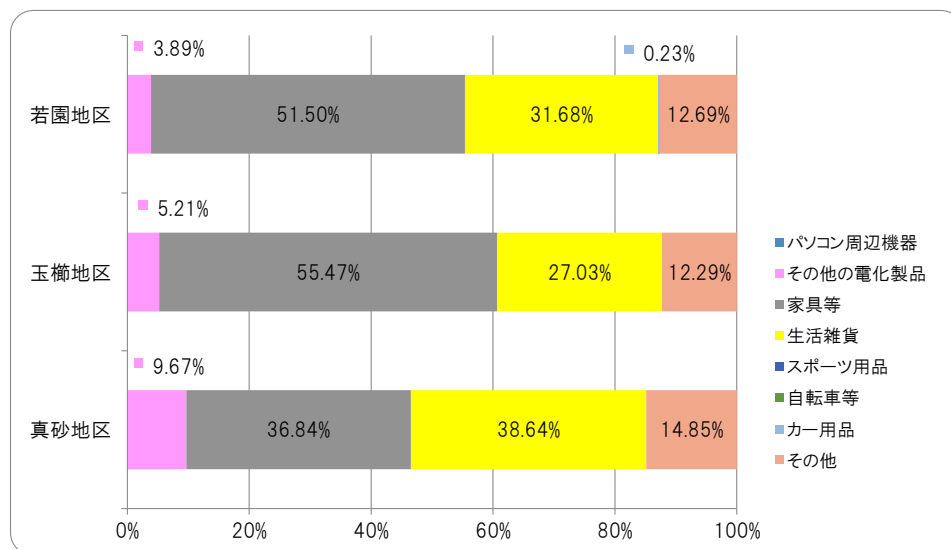


図 2.2 大分類ごみ組成（家庭系粗大ごみ（小型））

3) 事業系ごみ

家庭系普通ごみと同様に、事業系ごみもプラスチック類、紙類、厨芥類のいずれかまたはすべてが多くを占めていた。

また、茨木市環境衛生センターでは、産業廃棄物のうち木くず・紙くず・繊維くずの搬入を受け入れているが、今回調査した内容では受け入れていない種類の産業廃棄物が一定程度混入していることがわかった。

業種グループごとにばらつきがあるが、受け入れていない種類の産業廃棄物の半分以上は、事業所における分別及び資源化を徹底することによって資源化が可能な容器包装ごみであった。

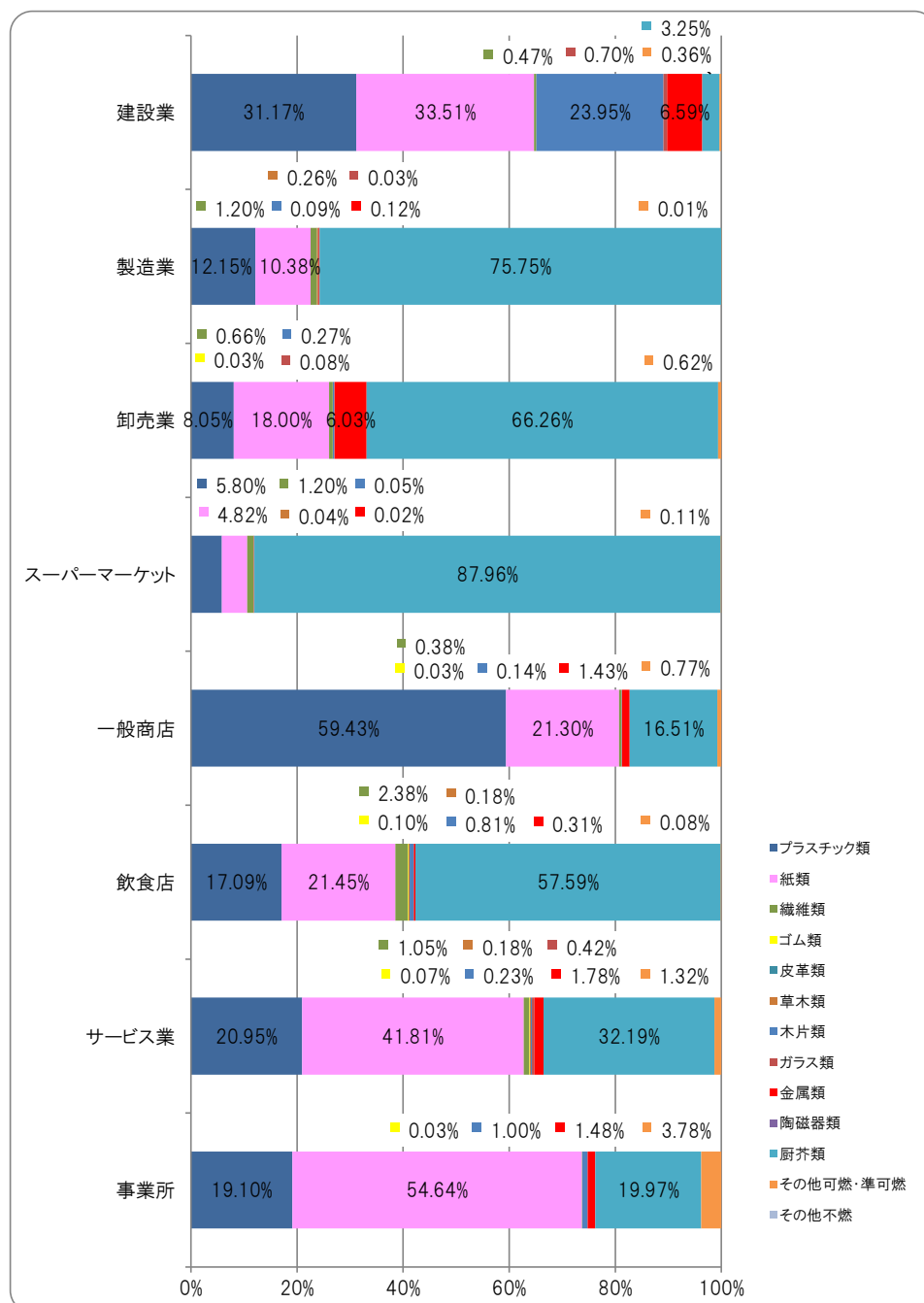


図 2.3 大分類ごみ組成（事業系ごみ）